

5
まいん



教育



環境
自然

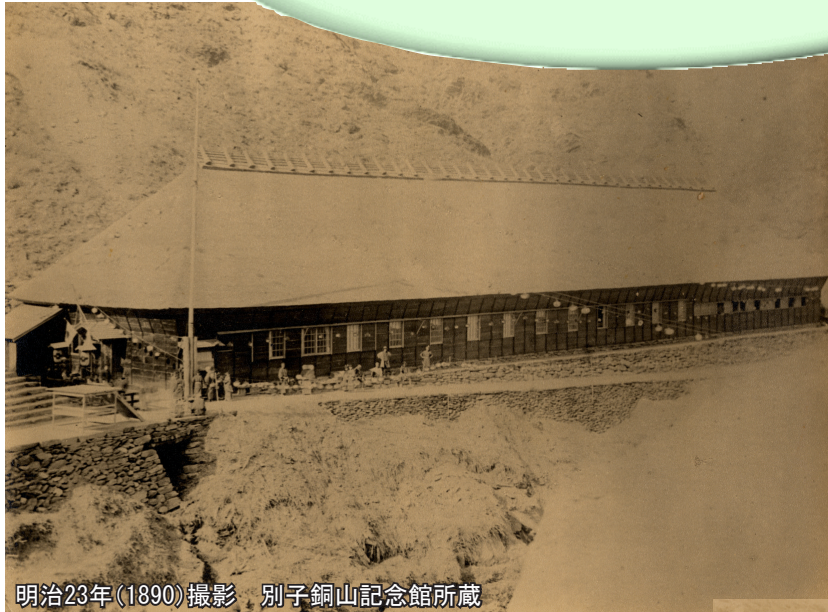


広瀬幸平



伊庭貞剛

こあしたにしょうがっこうあと 小足谷小学校跡



明治23年(1890)撮影 別子銅山記念館所蔵

日本初の
山中の学舎
まなびや

こあしたに
小足谷 接待
館跡を小足谷川に沿って
さらに登っていくと、右
手側に長い石垣が見えて
きます。

すみともしりつこあしたにしょうがっこう 住友私立小足谷小学校

は、教育を大切に考えた広瀬幸平によって明治6年(1873)に開校されました。

明治5年に学制が公布された翌年であり、しかも海拔1,000メートルを越える山中に日本で初めての小学校がつくられました。

当初は目出度町^{めったまち}に小学校が設立され、その後、別子山村に譲られ、明治22年、この場所に小学校が新しく設立されて移転してきました。

明治32年3月末の教員数は7人、生徒数は298人でした。

元新居浜市長の荒井源太郎^{あらいげんたろう}、泉敬太郎^{いずみけいたろう}などの諸氏はこの小学校で学びました。

大正4年(1915)の火事により、本校を含め周辺の建物も焼失し、生徒は東平小学校^{とうなる}や弟地小学校^{おとし}へと移りました。

その後、大正5年の旧別子撤退によって廃校となりました。



明治32年(1899)撮影 別子銅山記念館所蔵



環境問題を考える学びの地に生まれ変わった

植林が小学校跡の石垣に行われていますが、これは別子銅山支配人であった伊庭貞剛の植林事業の意志を継ぐものです。

ここに植林されている木を見ると、ヒノキやカラマツ、クロマツなど様々な種類の木が植えられていることがわかります。それは、この山にどの種類の木が根付くかを知るためでした。場所によっては、寒冷地に自生しているシラカバもあります。先人たちは様々な試行錯誤の中、大変な努力を積み重ねながら、山を緑に返そうとしました。その取り組みは100年近く経過する中、素晴らしい実を結んでいます。

